

令和8年度 第1回米子市社会教育委員の会・会議概要

○日 時 令和8年5月18日（月）午後3時00分から午後5時10分まで

○会 場 米子市役所第2庁舎第2会議室（2階）

○出席者 委員

安部悟（会長）、内藤旗彦（副会長）、南前孝明、坪倉幹人、湯浅隆司、
内田聖、前田努、河津ルミ子、洋谷友子、亀井智子、大野公寛

事務局

教育委員会：金川事務局長

生涯学習課：田中課長兼社会教育主事、松永課長補佐、新見主任兼社会教
育主事、前田主任兼社会教育主事補

こども政策課：永榮課長、佐藤担当課長補佐兼社会教育主事、宮中担当課
長補佐

地域振興課：坂本係長兼社会教育主事、齋藤係長兼社会教育主事

人権・男女共同参画課：松本人権政策監

文化振興課：大塚課長

スポーツ振興課：渡部課長

○欠席者 なし

○傍聴者 なし

○報道関係 なし

【協議会の概要】

1 開 会

2 教育長あいさつ

3 委員紹介

4 会長及び副会長の互選

会長に安部悟委員を、副会長に内藤旗彦委員を選出。

5 報告

鳥取県社会教育委員連絡協議会理事兼代議員に内藤旗彦委員

米子市児童文化センター運営委員会委員に前田努委員

米子市図書館協議会委員に亀井智子委員

米子市子どもの読書活動推進ビジョン検討委員会委員に河津ルミ子委員
の選出を確認。

6 研修「社会教育と社会教育委員の役割について」

(1) 「社会教育と社会教育委員の役割について」

資料1に基づいて説明。

《委員質疑・意見》

- （委員）“社会教育の視点”の「つながりづくり」の位置について、人づくりのあとの矢印の位置に記載があるが、「土壌づくり」の部分にも関わるものだと思うている。

（委員）「土壌づくり」は難しいなという印象を持っている。「土壌ができる」＝「受け止める仲間がいる」ということにつながることを考えると、「つながりづくり」と「土壌づくり」はくっつけてもいいのではと思った。

⇒（事務局）

「地域づくり」が一筋縄ではいかないことは認識しており、ここにあって社会教育の視点として「学びの土壌づくり」を入れた。「米子には何も無いけん」ということが言われるが、実は地域にはそれぞれの歴史があり、うちの地区はこんな町だという郷土愛を育んでいくこと、そしてそこにいろいろな人を巻き込んでいきたいという想い。この図だけで全てが伝わっていないことも承知しており、みなさんの意見をいただいてブラッシュアップしていきたい。

（委員）1ページ目の「教育」の「教える者」と「学ぶ者」がいて成立するという説明だけでなく、つながりながら学びあっていくという側面もあわせて説明していくとよいと思った。

(2) 令和8, 9年度社会教育委員の会 日程について

資料2に基づいて説明。

7 議事

(1) 令和8年度社会教育関係課の施策について

《事務局説明》

各課の令和8年度施策のポイントについて、資料3に基づいて説明。

《委員質疑・意見》

- （委員）地域性を踏まえたまちづくりを推進するための取組について教えてほしい

⇒（事務局）

地域活動支援員をブロック別に配置し、地域からの相談を受けたり、担当課へのつなぎをしている。29公民館の地区ごとに、郷土芸能や伝統行事などを地域カルテとしてまとめているところ。

- （委員）令和8年1月6日の地震の時、子どもたちは冬休みで家にいた。あの家は1人だから公民館に行ったらよかったねという声が地域の方からあったが、保護者にそういう認識がないので、啓発をしていくと良いと思う。

⇒（事務局）

地域振興課で自主防災組織の支援をしている中で、そういった声は聞こえてきている。一方で、南部地域で、子どもが家に一人でいて怖かったから公民館に逃げ込んできたという話や、福米地区でも、保育園から子どもがまとまって公民館に避難したと聞いている。地域の災害リスクを踏まえながら、災害対応力を高めていく取組を推進していきたい。

- （委員）放課後こども教室で、参加者の要望に基づいてプログラムを改善した結果、登録人数が大幅に増加したとのことだが、どのように改善したのか聞きたい。

⇒（事務局）

K-POP、音楽等、子どもたちが興味・関心のあるプログラムを組み込んだ結果、登録人数が2倍近くまで増えた。

（委員）児童・保護者への情報提供の方法はどのようにしているか聞きたい。

⇒（事務局）

小学校との連携、翌年の新入生を対象としたオープンスクールでの情報提供、地域学校協働活動推進員経由での情報提供などを行った。

- （委員）我々の小学校区では地域協力隊を結成し、多くの地域住民の方々に協力いただいている。集会時の場所の確保、茶話会の費用など、現状は実費で負担されている。金銭的な補助の仕組みがあると、活動の下支えになると思う。

（委員）我々の小学校区でも同様に、ボランティアの方と小学校の中庭を小学生と一緒に清掃＋茶話会を計画している。そういう場合のお茶代であれば、コミュニティ・スクールの予算の中から出せるはず。

⇒（事務局）

お茶・水・清涼飲料水など、水分補給を目的とした飲料で、ボランティア参加者用であれば使用できる。

今伺ったような現場の状況やニーズを把握させていただいた上で、どのような支援ができるか行政として検討していきたい。

地域毎の状況の違いを踏まえ、支援をしていく。また、活動をされている方に情報が伝わっていない部分があるので、必要な方に情報を届けるということには注意していきたい。

- （委員）地域活動は善意で成り立っている。人口も減少していく中で役員の成り手も少なく、同じ人がやる、最終的には、子ども会がなくなっていく状況がある。会や活動の目的をわかっていないからそうなっていると思うので、子どもへの教育や体験の機会の提供をしていくこと、その支援が必要。

- （委員）各課で様々な講座やイベントを計画されていることがわかった。一方で、週末はいろいろなところでイベントをしており、大人も子どももそれぞれ行きたい催しがあり、平日は子どもの習い事等があって、取捨選択が難しい状況がある。同じ会場の別の会議室で、部門横断的にイベントの共催などを考えてもらおうと、現地まで一緒に行って別々の会場でそれぞれ参加する形も取れて嬉しい。
- （委員）「人づくり」という観点で、こういう成果が見られたという事例を共有してほしい。

⇒（事務局）

文化のプロアーティストの体験について、学校関係者との連携・協力により、一昨年と比べて3倍の700名の参加につながった（＝種まき）。子どもが興味を持っていたということに加え、保護者の働きかけというのも大変な力になるということを実感した。文化振興課としては、バスの確保など参加しやすい環境づくりを行った。

（事務局）

地域振興課では、福生東公民館と高校生ユースサポーターという独自の取組を一緒に行った。具体的には、SNS（インスタグラム）での広報を高校生に全権委任して発信してもらっている。結果としてフォロワーもかなり増え、公民館活動をより多くの方に知っていただくきっかけとなっている。また、高校生発意で公民館での自習室づくりを試験的に行った。公民館職員以外の住民が公民館でやりたい活動を行うということが、現在はすごく珍しいが、本来はこうあるべきであり、非常に注目している。

また、防災スクールという市内の防災士を対象とした実践的な教育を令和5年度から独自に開催している。学んだことを地域に帰って還元するという目的。毎年開催するごとに、OBもオブザーバーとしてたくさん参加していただき、各地区のイベントを応援しあったりという防災人材のつながりが広がっている。

（委員）お話を伺って、ものすごい成果が出ているなということがわかった。

住民の「こんなことやってみたい」を実現できるサポートをしていく必要があるのではないか。人なのか、お金なのか、場所なのか、つながりづくりなのか。そういう声をキャッチする人がいるはずなので、その声を広げるような力量を高めるとか、声を発しやすい仕組みづくりができるかもしれないと思った。つながりができて、何かやってみたいとなった後の、民間の様々な有志の活動などとのつながりづくりの支援・仕掛けなどは必要かと思う。

（2）社会教育委員の会としての今期取組内容の検討

《会長から提案》

委員の「個人の探求」の取組について令和8年度も実施するという提案に対し、他の委員からも異議はなく、実施することとなった。

社会教育委員の会としての取組は、自分たちの組織だけで解決を目指すのではなく、様々な主体と連携していくことが解決につながるのではという認識のもと、令和8年度については「委員同士の情報共有をしていく」ということとなった。

《委員意見》

- （委員）過去に開催したおやじ自慢大会の紹介。普段褒められることのないおやじたちがお互いを褒め合い、活動を誇りに思ってもらうこと。そして他のおやじの会話を聞いて、「こんなことやっているんだ」というヒントにしてもらう目的。そしてまた、自慢大会を開催したいと思っている。様々な分野で長年活動してきた方々の話を改めて聞く機会がないが、聞いてみると参考になることができるとあるはず、そういう場づくりをしたい。
- （委員）スポーツ分野では、子どもたちの部活動の地域移行がどうなっていくかを心配している。トップアスリートの養成とスポーツの裾野を広げる取組の2極化も進んでいる。また、子どもたちがスポーツに親しむ環境を支える大人も減っている。
- （委員）文化協議会は80周年になるが、文化芸術に関わる方々も高齢化が進んでいる中で、米子の文化の火を灯し続ける必要があると痛感している。文化振興課とも連携し、子どもたちへのアプローチ、部活動にどんな協力ができるか等、検討している。
- （委員）人権という言葉自体に対して拒否反応のある住民もいる中で、小地域懇談会のやり方も考えていかないといけない。高齢者は子どもの支援にまで手が回せる状況ではなく、高齢者の生活環境の整備も大きな課題。つながりづくりだと、例えば山陰歴史館が開催している街歩きを、子どもも参加できるように工夫すると、高齢者と子どものつながりづくりの場になるかもしれない。

8 その他

（1）米子市教育振興基本計画の改定について

こども政策課より、令和8年度に予定する計画改定のスケジュールについて説明。

（2）事務連絡

社会教育委員の会 LINEWORKS の登録について、社会教育委員の写真入り名簿作成（公民館向け）について説明。

9 閉会